

## ◎教育、読み書き、考えることについての糧を得るために

## 《学習・教育、授業方法》

白取春彦 (2012)、独学術、ディスカバー携書

内田樹 (2013)、修業論、光文社新書

内田樹 (2014)、街場の共同体論、潮出版社

内田樹 (2008)、街場の教育論、ミシマ社

国民文化研究会・新潮社編 (2014)、小林秀雄 学生との対話、新潮社

高谷修 (2005)、看護学生のための教育学 ―自己の再発見のために― 改定3版、金芳堂

高谷修 (2012)、高谷流 看護教育方法 教える技術がよくわかる、金芳堂

サリバン、楨恭子訳、遠山啓序 (1973)、ヘレン・ケラーはどう教育されたか サリバン先生の記録  
明治図書

向山洋一 (1986)、続・授業の腕をあげる法則 教育新書11、明治図書

渋谷美香 (2010)、はじめての教育委員 研修企画のキホン、日本看護協会出版会

E. ウィーデンバック、都留伸子・武山満智子・池田明子訳 (1981)、臨床実習指導の本質 看護学生援助  
の技術、現代社

小林美亜、鐘江康一郎 (2014)、マネジメントの質を高める！ナースマネジャーのための問題解決術、医学書院

平澤美恵子・村上睦子監修 (2012)、写真でわかる助産技術、インターメディカ

## 《読み書き・思考法》

宇佐美寛 (2014)、新版 論理的思考 論説文の読み書きにおいて、メヂカルフレンド社

高谷修 (2012)、看護師に役立つレポート・論文の書き方 改定3版、金芳堂

船井幸雄 (1996)、百匹目の猿、サンマーク出版

丸山博 (1999)、死児をして叫ばしめよ 丸山博著作集1、農文協

佐高信 (2013)、原田正純の道 水俣病と闘い続けた医師の生涯、毎日新聞社

藤田英時 (2012)、メール 文章力の基本 大切だけど、だれも教えてくれない77のルール、日本実業出版社

外山滋比古 (1984) 思考の整理学、筑摩書房

中村雄二郎 (1992)、臨床の知とはなにか、岩波新書

## 《歴史》

杉立義一 (2002)、お産の歴史 縄文時代から現代まで、集英社新書

関口允夫 (1998)、理想のお産とお産の歴史 日本産科医療史、日本図書刊行会

佐藤香代 (1997)、日本助産婦史研究 その意義と課題、東銀座出版社

大林道子 (1989)、助産婦の戦後、勁草書房

エドワード・ショーター、池上千寿子・太田英樹訳 (1992)、女の体の歴史、勁草書房

## 《学会誌》

\*高島葉子、中島通子、菊地美帆：原著 統合カリキュラムにおける分娩介助技術法の視聴覚教材開発の意義  
と教育効果、医学と生物学；155 (2)、65～71、平成23年2月

\*宮本涼子、前田尚美、須藤桃代、高橋弘子 (2014)、拓殖産婆制度と北海道別海村の拓殖産婆下川原スエの  
活動、日本看護歴史学会誌；No.27,47～61

参考文献から省略したが時間あれば口頭で紹介したいもの（一著者1冊を記載の条件とするため）

D・カーネギー、香山晶訳（2009）、人を動かす、創元社

畑村洋太郎（2002）、失敗を生かす仕事術、講談社現代新書

中村雄二郎（1992）臨床の知とは何か、岩波新書

中村雄二郎（1999）正念場 不易と流行の間で、岩波新書

稲盛和夫（2012）、働き方、三笠書房

西條剛央（2009）、J J Nスペシャル 86 看護研究で迷わないための超入門講座、医学書院

#### <配布資料>

①片倉裕子・高橋弘子：原著 看護学生が臨地実習で自己効力感を高める要因 —4年次の実習を終了した学生へのインタビューの質的記述的研究—、母性衛生；54（4）、486～494、平成26年1月（2014）

②遠友夜学校の案内・教師守則

#### <展示資料>

①平成25年 看護関係統計資料集 2014年2月5日 ～ 助産師学校数 大学院23校

②佐伯の学校の卒業生たち・・・志高い助産婦学校の設立と運営

③真田清子他・看護科学研究学会・看護教育研究グループ（2012）、患者理解への看護の視点 科学的看護論を使う、日本看護協会出版会

④山内精子編集代表、岩本香監修（1997）、看護学授業研究記録集—模擬授業検討会—、厚生省看護研修研究センター関東甲信支部同窓会